

俣野の昔から今

かおういん にしまたのちいき たず
～花應院・西俣野地域を訪ねて～



★2020年6月28日、俣野小学校の教職員「またののさんぽ」部会チームで、主に3・4年生の社会で学習する「地域に昔から伝わるもの」について改めて考え、教材開発と実地調査を目的に花應院に足を運びました。

2年前から始まった4年生の花應院の見学の意味、また近隣地域に古くからある建物や説話について住職さんからたくさんのお話を聞くことができました。



西俣野地域には「小栗判官と照手姫」の物語が古くからあり、その縁起の地として知られています。江戸時代当時に出版された本が今でも花應院には保存されています。近くには小栗判官の墓地や、焼けてしまった焰魔堂の跡など、歴史的文化的財とされるものが今でも人々に大切にされて残っていました。また小栗判官と照手姫の物語については、花應院や大鋸地区の遊行寺が縁起の地として知られています。



花應院には、人間の死後に裁きを下す閻魔様の像があります。また裁いた後、苦行が課せられる地獄の絵が残されています。この閻魔様の像の中には、小さな閻魔様の石像が入っています。その石像は、花應院ができる前に、「焰魔堂」と呼ばれる場所にあったものであり、火事で堂が消失した際、哀れに思った村人が自分のふんどしを使って背負い運び出した話が伝えられています。今では年に2度ご開帳の機会があり、その姿を見ることができます。



地名のおこり

俣野とは川が二またに分かれ、(境川と宇田川) 更にその川をはさんで両方に土地が広がっていることからおこり、川より東を東俣野、西を西俣野と呼びました。

(またののさんぽ改訂版 p 18 より)

実際に見に行くと、2つに分かれている様子がよくわかる。



〈閻魔堂跡〉
十王堂跡 が新たに新設された。小栗墓塔もある。



〈伝承小栗塚之跡〉

家来は火そうしたが判官は土そうされたので

(またののさんぽ改訂版 p 21)

湘南ゆうき村という施設の道路沿いにあり、普通に歩いていると見過ごしてしまいそうな場所だった。その近くには、小栗判官と照手姫の伝説がこの地域に残っていることを伝える掲示板もあった。



〈土震塚〉

数日後に生き返り、からだの土をふるって落した。

(またののさんぽ改訂版 p 21)

小栗塚之跡の向かいに階段があり、そこを上っていくとある。とてもわかりにくい場所だったが、見つけるとそこから小栗判官が餓鬼の姿で蘇った様子が想像できる。

